

決算特別委員会審査から

9月27日

貯めこみはやめて
市民サービスの充実を
行財政局審査で松本議員



質問する松本のり子議員

神戸市は、少子・超高齢社会の進展による社会保障費の増加や、本格的な人口

プラスチックごみの削減はまったなしの課題で大量製造、大量消費のあり方も見直す必要があります。さらに日本は年間100万トン以上のプラスチックごみを東南アジアに輸出し処理していますが条約により禁止になります。それにより国は今後プラスチックごみを各自治体の焼却炉で燃やすように要請してきています。今井議員は「国からの要請にどう対応したのか」と質しました。

答 弁

浜本事業系廃棄物対策部長：中間処理



質問する朝倉えつ子議員

総務省が発表した人口動態調査では、神戸市に住む日本人の人口減少が全国市区町村で最大となりました。神戸市はこの事態を受けて、人口減少対策を強化するとして、「リノベーション神戸」第1弾、LED街灯の増設や防犯カメラ設置などを提案。これまで市が掲げてきた「神戸2020ビジョン」にも示されていなかっ

1. 「行財政改革2020」の取り組みについて
2. 新庁舎整備について
3. 公契約条例について
4. 平和行政について

質疑項目

減少社会の到来により都市間競争が激化する中、さらなる行財政改革に取り組んでいく必要があるとして「行財政改革2020」をすすめ2018年度決算で約20億円の単年度黒字となりました。主なものは事務事業の見直しや、人件費の抑制などで、市民サービスを削減した結果です。松本議員は、「市は今年から認知症保険制度創設のために1人当たり400円の超過課税を実施したが、震災後から毎年黒字決算で、これまで120億円もの基金があるのなら、市民の負担になる超過課税はやめるべきだ。貯めこむのではなく、

集めすぎた税金は市民のために使うが正しい税の姿ではないのか」と質しました。

答 弁

遠藤局長：集めすぎているという認識はない。基金は災害時などにいち早く都市機能や市民生活を回復させるために必要なもの。

松本議員：今の市民のくらしは大変きびしい。税金は貯めこむのではなく、市民にしっかり還元すること。また、市民サービス向上のために使うべきだ。

9月27日

プラごみ削減、
積極的に毅然と対応を！
環境局審査で今井議員



質問する今井まさこ議員

対しても「受けられない」と毅然とした態度で断り、プラスチックそのものを削減するよう企業や国への働きかけを強めるべき。

1. プラスチックごみの削減について
2. 石炭火力発電所の増設について
3. 神戸市の温室効果ガスの削減目標について
4. アスベストの撤去について(要望)

質疑項目

・最終処分業者へのアンケートでは神戸でも近畿圏の指定都市でも滞留は課題になっておらず対応する状況にないと認識している。兵庫県とも注意しながら、情報収集に努めたい。

今井議員：今ごみがあふれてないから大丈夫ということではない。自治体への押しつけ自体が間違い。プラスチック製品の製造責任をあいまいにせず、焼却に

9月30日

子育て世帯や若者を
応援する施策を
企画調整局審査で
朝倉議員と松本議員

1. 人口減少対策について
2. 関西電力金品受領問題について
3. 外郭団体の運営のあり方について
4. 医療産業都市について

質疑項目

性、受益と負担という観点でどのような施策が可能か考えてすすめていく。

朝倉議員：本会議では、わが会派の西議員をはじめ、与党議員からも「子どもの医療費無料を高校まで」「あたたかい中学校給食を」という声があがった。このまま国の言いなり施策を続けると、ますます若者や子育て世代が離れる。市民や子育て世帯のくらしを直接応援する施策に改めるべきだ。

答 弁

谷口局長：まちとくらしの質を高めるために必要な施策だ。今後も持続可能

神戸市は国際コンテナ戦略港湾事業として水深16メートルの大水深バース整備等に90億円以上もの費用を計上しています。欧州航路は週1便のままであり、貨物取扱量も基幹航路としても増えていません。山本議員は、過大な投資に見合うほどの効果があらわれているのか疑問だとして、この方針を改めるよう迫りました。また、ウォーターフロント再整備については、「神戸の歴史を感じさせる趣のある場所を壊すものだ」として中止を求めました。

質疑項目

1. 国際戦略港湾について
2. 神戸港将来構想について
3. 六甲アイランド南埋め立てについて
4. 都心ウォーターフロント再整備について

答弁

山本議員：一番大きな欧州航路の取扱量は前年比で91.1%。5年前と比べても取扱量が約3分の1強に減っている。大幅な増加は見込めないのではないか。

田中港湾局計画部長：海運の動向は常に変わっている。神戸港が大型船を常に受け入れる環境を整えていくためにも、大型船舶に対応した施設整備は必要。

山本議員：船会社同士がアライアンス組んでいる。アライアンスの中でやりくりをしたらいい。過大な投資はやめるべきだ。

9月30日

国際戦略港湾に
過大投資やめよ
港湾局審査で山本議員



質問する山本じゅんじ議員

きだ。

している。しかし当時と前提条件が変わっている。福祉パスの実績がつかめ、補償率の見直しをと要望があった。

森本議員：有識者会議では福祉パスは現行のままでという意見が多い。また、交付枚数が増え費用が増えると言われるが、2009年から2017年まで交付枚数は1.3倍になっているが一日あたりの利用者数は増えていない。逆に2008年の有料化で減っている。本来の目的である社会参加と移動支援に支障をきたしていないか。代表質疑でもわが会派が言ったが6.5億円上乗せすればいいだけの話だ。

10月2日

敬老パス・福祉パスの
意義を守り、福祉と経済
の観点から予算を
保健福祉局審査で森本議員



質問する森本眞議員

敬老パス・福祉パスのあり方について、今回兵庫県バス協会から補償額の増加を求める申し入れがあったことにより、有識者会議で制度の検討がおこなわれている問題で、神戸市は2008年の有料

1. 敬老パス・福祉パス問題について
2. 国民健康保険について
3. 敬老パスと医療費の関係について
4. 加齢による軽度中度の補聴器の購入助成について

質疑項目

化した際、補償率が当初は75%のところ、将来的には高齢者がふえるであろうということで2025年に63%になっても制度が維持できるとバス会社5社と合意しています。

森本議員は「2008年当時の答弁を知っていたのか。だとしたら現在でも補償率83%で維持されている。なぜバス協会から緊急要望がでたのか」と質しました。

答弁

上田部長：2025年度に63%という試算でバス事業者から合意が得られたと認識

10月3日

中学校給食は実施方式
をあらため、あたたかく
美味しい給食を
教育委員会審査で味口議員



質問する味口としゆき議員

も様々なご意見いただいた。これからも生徒・保護者あるいは市会の先生方から広くご意見をいただきながら、財政負担などの点も念頭に置き、しっかりと検討をしていきたいと考えている。

質疑項目

1. 教育委員会の独立性について
2. 教育委員会の組織風土改革について
3. 中学校給食について

関係者の方に対して、寄り添うという点での認識、気持ちが非常に欠けていたということ、一番に反省しなければならない」と答弁。味口議員は引き続き、管理主義教育・競争教育を改める根本的改革を求めました。

答弁

味口議員：あたたかくておいしい給食の実現を求めているのは、共産党だけではない。与党議員からも同じ意見が出ていることを重く受け止め、実施方式見直しの決断をすべきだ。

長田教育長：この給食の問題については、アンケートでも文教こども委員会

神戸市の中学校給食は、調理を民間業者に委託し、業者の工場から各中学校に配達される『ランチボックスデリバリー方式』です。今年6月に神戸市が実施した中学校給食アンケートでは、「冷たい」「おいしくない」という声が多数寄せられました。味口議員は、子どもたちや保護者の願いを受けとめ、あたたかくバランスの取れたセンター方式や自校方式給食への転換を要求。また、垂水のいじめ自死問題で、味口議員は「首席指導主事と校長だけの問題ではなく、教育委員会全体が問われる問題。その核心は、子ども一人一人を人間として尊重し、寄り添うこと、保護者の思いに寄り添う姿勢の欠如である」と質し、教育委員会は「亡くなられた生徒さん、あるいは周りの関係の生徒さんや保護者の方あるいは

傍聴にお越しく下さい

多くの方の傍聴をお願いします

今井まさこ議員が一般質問

※時間は早くなる可能性がありますので、余裕をもってお越しく下さい。

日時 10月29日(火) 13時50分頃から
場所 市議会本会議場

市役所1号館25階で傍聴手続きをお願いします